

EU Indicators

欧州経済指標コメント：4-6月期ユーロ圏GDP一次速報値

発表日：2017年8月1日(火)

～2%成長が定着～

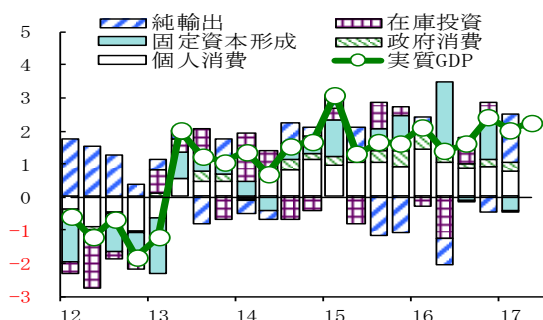
第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理

03-5221-4527

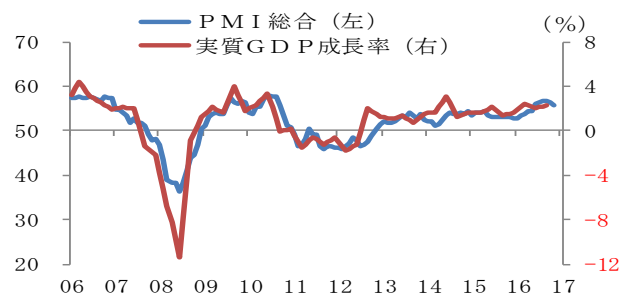
- ユーロ圏の実質GDP成長率は4-6月期の速報値で前期比+0.6%（同年率+2.3%）と、前期の同+0.5%（同年率+2.0%）からやや加速し、17四半期連続のプラス成長を記録した。なお、1-3月期の実績値が改定前：同+0.6%→改定後：同+0.5%に下方修正され、昨年10-12月期の実績値が同+0.5%→同+0.6%に上方修正された。過去4四半期は年率2%ペースの成長が続き、前年比でみた成長率も前期の同+1.9%から同+2.1%に加速し、今次サイクルで最も高い水準を記録した。
- 国別の内訳は16日の二次速報値で発表されるが、既報のフランスが3四半期連続で同+0.5%成長と堅調な成長、スペインが同+0.9%（前期は同+0.8%）と2014年末以降の高成長を持続、ベルギーが同+0.4%と前期（同+0.6%）からやや減速した。各種の月次統計から判断して、ドイツとイタリアも揃って前期並み（各々同+0.6%、同+0.4%）の成長を記録した見込み。需要項目別の内訳は9月7日発表の改定値で公表されるが、内外需が揃って成長を牽引した公算が大きい。
- 7-9月期入り後の景気指標は、PMI指数の改善モメンタムが僅かに鈍化した一方、ドイツのIfo企業景況感が統計開始以来の最高水準を更新と区々。足許で急ピッチなユーロ高が進行しており、外需の景気牽引力が低下する公算が大きい。ただ、失業率が約8年半振りの水準に低下するなど、雇用環境の改善が続いているほか、エネルギー価格の物価押し上げ剥落から家計の実質購買力の目減りも緩和される。内需が景気を下支えするとみられ、7-9月期も年率+2%前後の堅調な拡大が予想される。

■ユーロ圏：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：Eurostat

■ユーロ圏：PMI総合指数と実質GDP成長率



注：実質GDP成長率は前期比年率。

出所：IHS Markit、Eurostat

■ユーロ圏GDP（前期比年率＜%＞、括弧内は寄与度＜%ポイント＞）

	名目 GDP	実質 GDP	内需				外需			
				個人消費	政府支出	固定資本 投資	在庫		輸出	輸入
15/7-9月期	2.7	1.7	(2.8)	1.9	1.8	3.5	(0.8)	▲ 1.2	2.0	5.0
15/10-12月期	2.9	1.6	(2.7)	1.7	2.3	5.5	(0.2)	▲ 1.1	3.3	6.2
16/1-3月期	2.6	2.1	(2.0)	2.6	2.9	0.9	(▲ 0.3)	▲ 0.2	2.0	1.8
16/4-6月期	2.1	1.4	(2.2)	1.9	1.1	11.4	(▲ 1.3)	▲ 0.8	5.2	7.6
16/7-9月期	2.1	1.6	(1.7)	1.6	0.6	▲ 0.6	(0.8)	▲ 0.1	1.4	1.7
16/10-12月期	4.1	2.4	(2.9)	1.7	1.2	5.6	(0.6)	▲ 0.5	6.3	8.0
17/1-3月期	2.0	2.0	(0.6)	1.4	1.3	▲ 2.1	(▲ 0.0)	1.4	4.9	2.0
17/4-6月期	—	2.3	—	—	—	—	—	—	—	—

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。